

# 研究の概要

20 24 年 5 月 10 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	遅延受精胚の培養成績と有用性
代表研究者 (所属・氏名)：	生殖技術部門・柴田 美智子
研究の目的：	当院では媒精後15～20時間後に受精確認を行っているが、雌雄前核を確認できない胚はDay2にタイムラプスにて前核の再確認を行っている。その際、Day1中に雌雄前核を確認した胚と、前核は見えなかったが細胞の分裂を確認した胚は正常受精胚とみなし培養を継続している。今回、その培養成績を詳細に分析し臨床的に有用性があるのか検討を行った。
調査データ該当期間：	20 21 年 1 月 1 日 ～ 20 23 年 11 月 30 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	2021年1月～2023年11月にICSIを行い胚盤胞まで培養予定であった12,175個の卵子を対象とした。受精確認時に雌雄前核を確認した胚(2PN)、遅延してDay1中に2PNを確認した胚(d-2PN)、前核を確認できなかった胚(OPN)の分割率、胚盤胞到達率、胚盤胞凍結率を比較した。また、d-2PNで胚盤胞に到達した胚としていない胚の前核出現時間と第一卵割時間を比較し凍結できた胚の予後を追跡した。さらに凍結できたd-2PN及びOPN由来のBLのET後の成績も調べた。
個人情報の取り扱い：	患者試料を分析する際には、連結可能匿名化をする。また試料の分析から得られる情報についても、厳重な管理とセキュリティ体制の整備を徹底し、連結可能匿名化を行い、符号のみで取扱うので、個人情報は公開されない。
本研究の資金源 (利益相反)：	なし
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	06-6534-8824 生殖技術部門・柴田 美智子
備考	